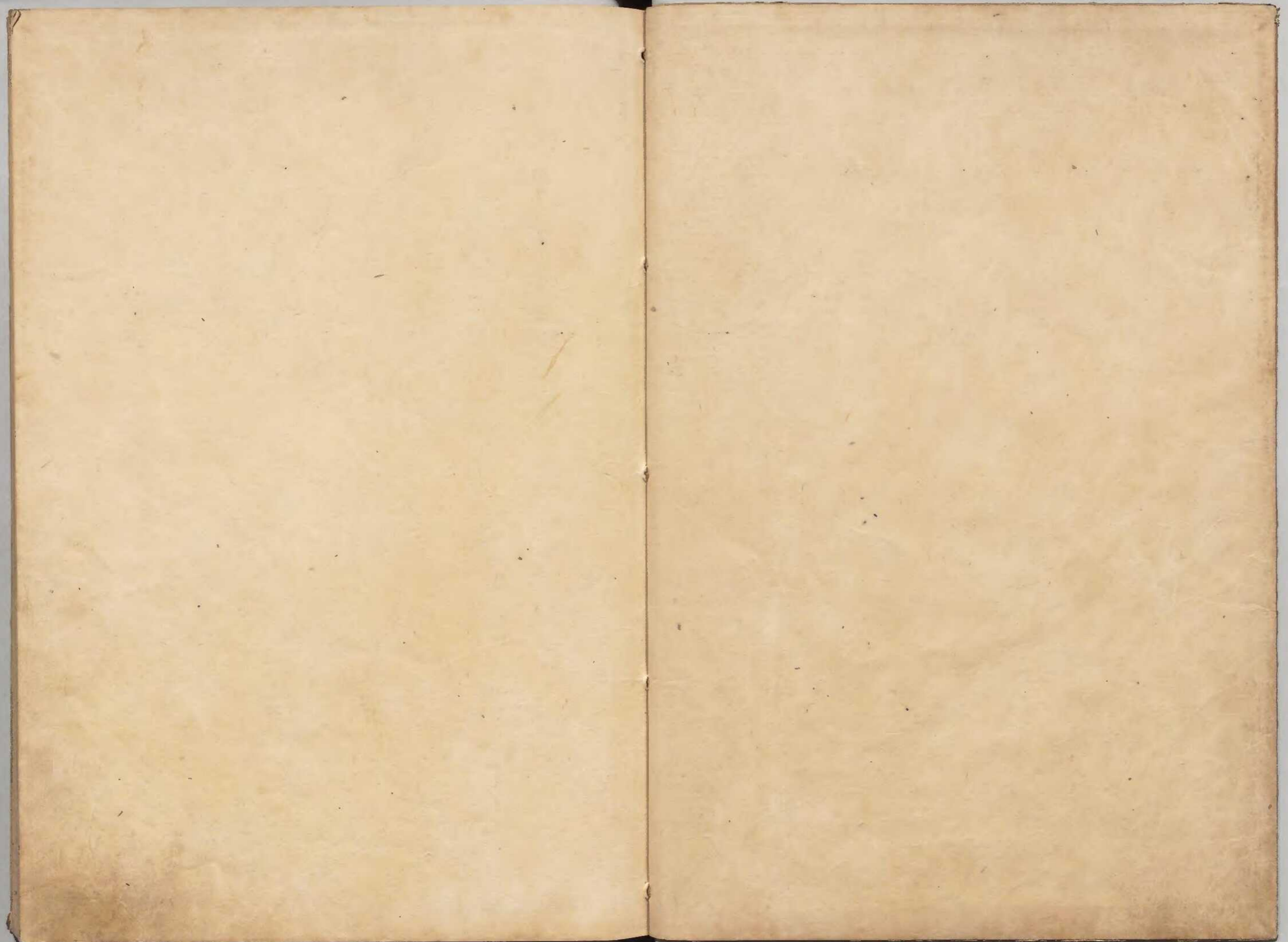


寛永諸家譜

清和源氏辛七冊之内
義光流之内小笠原

| | |
|------|------------|
| 内閣文庫 | |
| 番號 | 和 20199 |
| 冊數 | 186 (48) |
| 函號 | 綱 76 1 |





| | | | |
|----|----|----|----|
| 三好 | 上田 | 中鴻 | 丸養 |
| 林 | 伴野 | 赤越 | 水部 |

寛永諸家系圖傳

清和源氏

辛四

義光流

三好

● 系

小笠原刑部

生必儀例

河波かまじき細川ほそがわ後ご波なみ等ら

清和



系

小笠原式部 後三好義家と

号寸 生必田家 三好の惣領

三好隆理方丈か父なり

父刑部とおもひし波に赴き細川

隆政ちとてたふ先才人徳家此児

隆俊中しかかろく教度忠節と

守六の地へし河内三好と忠貴

こしへ領地りとうく是より先才か

三好と福寸 法名喜運

今播磨いん小笠原河内いん

年いさへ家傳いん是地い

号寸

系

孫右衛門

系

孫次郎

系

甚五郎 生必信州

括州江口小かろく討死時、年十二歳
法名家三

系

下野守 法名釣閑

一任 まこと

因幡守 生必括州 まこと

先下野守屋、なほいこゝろなるゆへ

下野守家督と云々

一任十六歳の時、相承より飯盛の城と

かこむはと死一任と部、好湯川と云々

とくみうらしてうけ首と云々

後理左史が子孫、被文と云々

是と云々、うけり後理左史死して

子孫、左史と信長、合戦、三好氏

かひく討死す一任ひとまかのまゝくは波しか
くは飛りしと信をたつ子がい
よまたまふと一任をれり信を
しる

元應元年九月廿日信長より孫列
を諷那しかめく技持万とたまふ
うれ朱平介あかひらと是にり

秀吉薨去の後

東照大権現とうしょうだいこんげんと云ふなり關東津くわんとうつ發向

此も一任ひとまか嘉子かこと云ふ方かたと云く
信守

孝七たかちも関原せきげん陣じんと信守

大坂おさかも度々たびたび津陣つじんと一任ひとまか信守

大権現だいこんげん此物こものと一任ひとまかと河内かみの樂心がくしんと云ふ

信守のぶまもと云ふ常とこと云ふ御ご守まもりて

うのゆと申す

孝七九年

大権現だいこんげんの命いのちよりより從五位下じゆごいげと叙ぎよす

因幡ちふはす

大権現荒御の後

名述院叙しは人なり常子御前ら

く候して御もると申さる

寛永八年十二月十日病死 法名

為三

可正

越後守 生公日家

大権現しは人なり兼地こ子石と領守

納命えんしつくと御給仕者ごうじとたる

夢長ゆながの関ヶ原の陣せきがはらのと候也

同八年

大権現此納命えん也なり從立まご位下かに

叙ぎす

大坂あ度の陣おさかと候也

寛永十一年七月五日病死

勝任

由あぢ 生か後

祖父一任が養子となりて家督と

しぐ後任

名法院教とあしけりけり養父一任

吉井大炊頭利徳とたのしく後任と

流立佐下と叙せん事とさふけり

利徳

名法院教と名と一けれが 始と

一任すてし年老らりしとくは

しとすし毎ふのしと仲好

ととやり寛永七年十二月廿八日

任流立佐下と叙す

勝正

猪と物 生國長秀

先勝任祖父一任が建初とけり

勝正庶子とらりとて家督とたる

家級
釘貫くぎぬき

三好

● 長直ながちか

伴實吉

生國河波

七房しちぶら

備中守

生必同守

法石真儀しんぎ

丹後守 後五位下 生國司家

三好山城守に属すうけり信也は
久野庵草部等と征伐のしに数度
軍忠とぬえんづも後秀吉に
使番となり黄纒と介り朝鮮陣に
赴き武勇はかまも色はりけしと
東照大権現きりりゆされ右馬中務

大権現として房一と石がされけり
泰長五年関が原陣に伏せり
我切らりこの地

大権現の位と兼地をたすふと
領地とのうけしは命より房一
河内のもをせがもり河内小
かたき二子三百石を兼地と給り
御相伴存とたり

後列しかたき病死けり六十一歳

法石道平

長連

備中守 後五位下 生國孫列

法石道流

長直 十世家の内

大権現とある

享長五年關が系御陣に依り

于石の御代と給り御信らる石

所より房一死して後遺跡に子三百

石と給り 名命よりして長連が領

地于石と直重小たまふ

同十九年大坂御陣に依り

長連院教に所人なり

直重

直重

生必城列 法石常流

名流院教

將軍家ノ侍人ナリ

父名直死ノ後四領ト給リ直重ト
か給ル于ル才直次ト給ル

直次ナリ

物九郎 生必後州 法名道受ト

名流院教

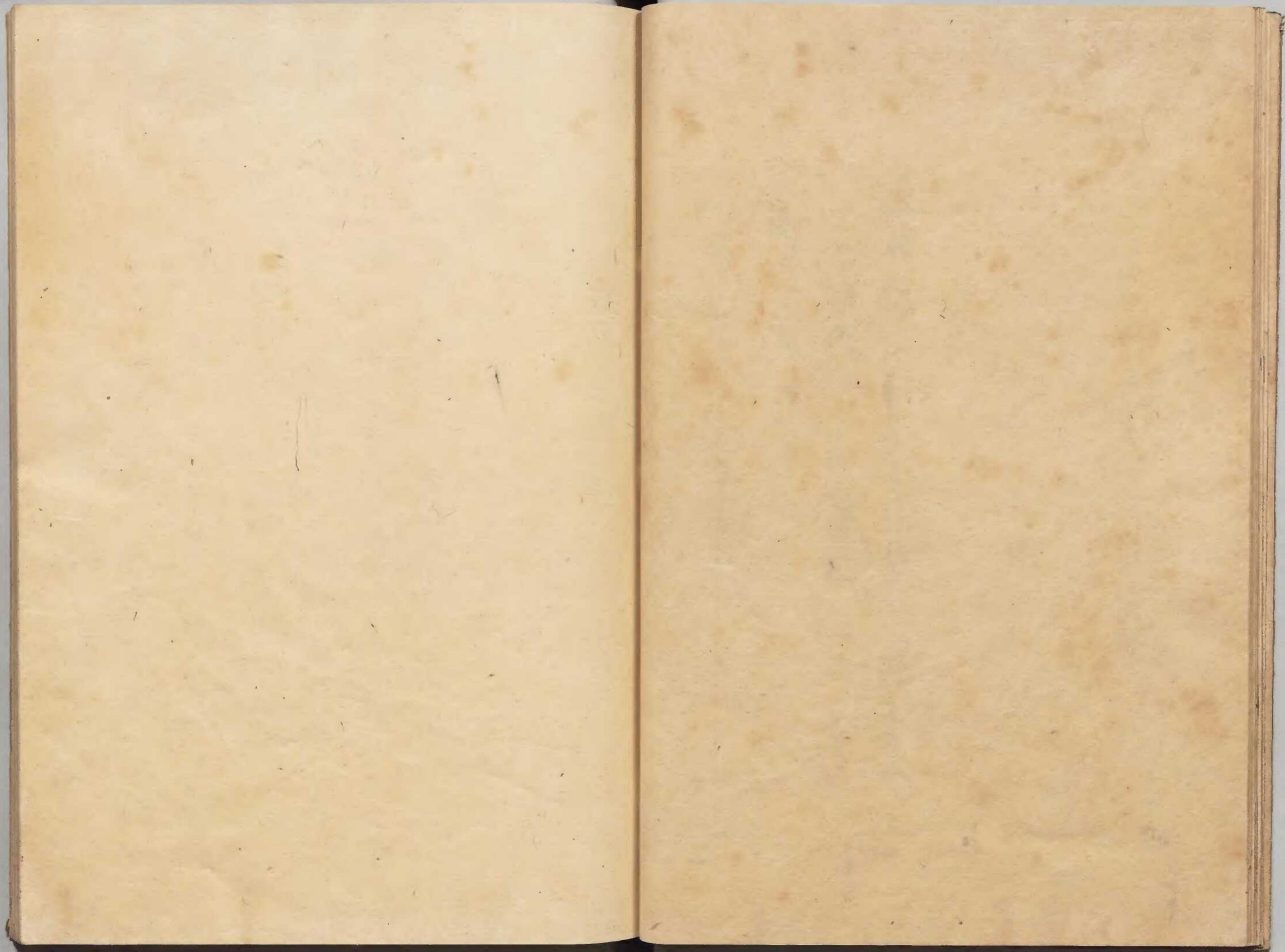
將軍家ノ侍人ナリ

直滋ナリ

虎ノ生必氏ト

將軍家ノ侍人ナリ直次ト進ル于ルを
たリり

家紋 三舟字松皮釘貫ト



林

うのさびとらさ小笠原らなり見足利えり

林ら北き歸かへしし飛と任にゆゆ人ひと林らとと孫まご号ごう寸すん

むむ親ちか氏うぢ之のとと州しゅう新あらた田たよりより三さん州しゅう

乃な松まつ平へいへへ御ごののかりかりのの内うち奉ほう任に州しゅう林ら

歸かへしし水みづよりよりりりしし甘あまくく林らのの系けいがが鐘かね

りり御ご座ざととらられれ水みづ越こ年ねんののとと記き

正月しょうげつええ日ひしし林らのの系けい巻まきしし御ご吸すく物ものとと

先づ
をすそを造りしこの今に教本
しかかきくも右例とかふも親氏
之れ位より林の系三州松平
へ移り石橋の道後と法侍乃頭
と始りけらるるの四切より

東巡大権現の御代も又林乃子孫
毎多えはふ 御代へ石かきれ御
益と一番と下り志重が祖父名
志代よりかくれ

系

友物 生必三州

清廉君 廣志卿と代人なり

天文六の 廣志卿と子松若とトな

ふともき友物五人の者志切り

依り御代又ト下り

と夜入必し廣志卿之法然不終

由地万十五貫又宛つる御代也

於末代よりお遠小の御代

天文六年

十月廿二日 于松丸 許五判

八國是之友

大窪新八郎友

源次左衛門友

大原直道左衛門友

林友仲友

系

友五郎

生必同友

廣志彌

大隈親とありき

二十五歳しく死す

忠政

友五郎

道新

生必同友

大隈親へ侍人なりき其れら忠政十七歳

より眼病しくしつて死んたり

元和八年正月十日五十九歳
病死

忠志

友四郎 生必同家

名陸院教一侍人なり

元和八年乙未大坂沙陣の時休を了り
高本之水廻りく乙未年七月廿九歳に
て討死 法名久露

重儀

中左衛門 生必相掾

實一隊濃五侍重儀の子なり林

道歌が養子と云ふなり依と林と

林号とす

將軍家へ侍人なり

寛永十六年 病死 年三十

重信 ちかのぶ

五郎ごろう重信ちかのぶ 生必同家

實まことハは女め御ご五郎ごろう重信ちかのぶがが子こたりたり叔父おじ
重信ちかのぶがが養子やしよととなり

忠勝 ちかてる

六郎むさし忠勝ちかてる 生必同家

お軍家おぐんかへへりりししりり

寛永かんえい十じゅう五ご年ねん二に月げつ十じゅう五ご日にち二に條じょうのの御城ごじょう

御番ごばん少すくくく病やまひ死し 法はふ名な宗むね重ちか

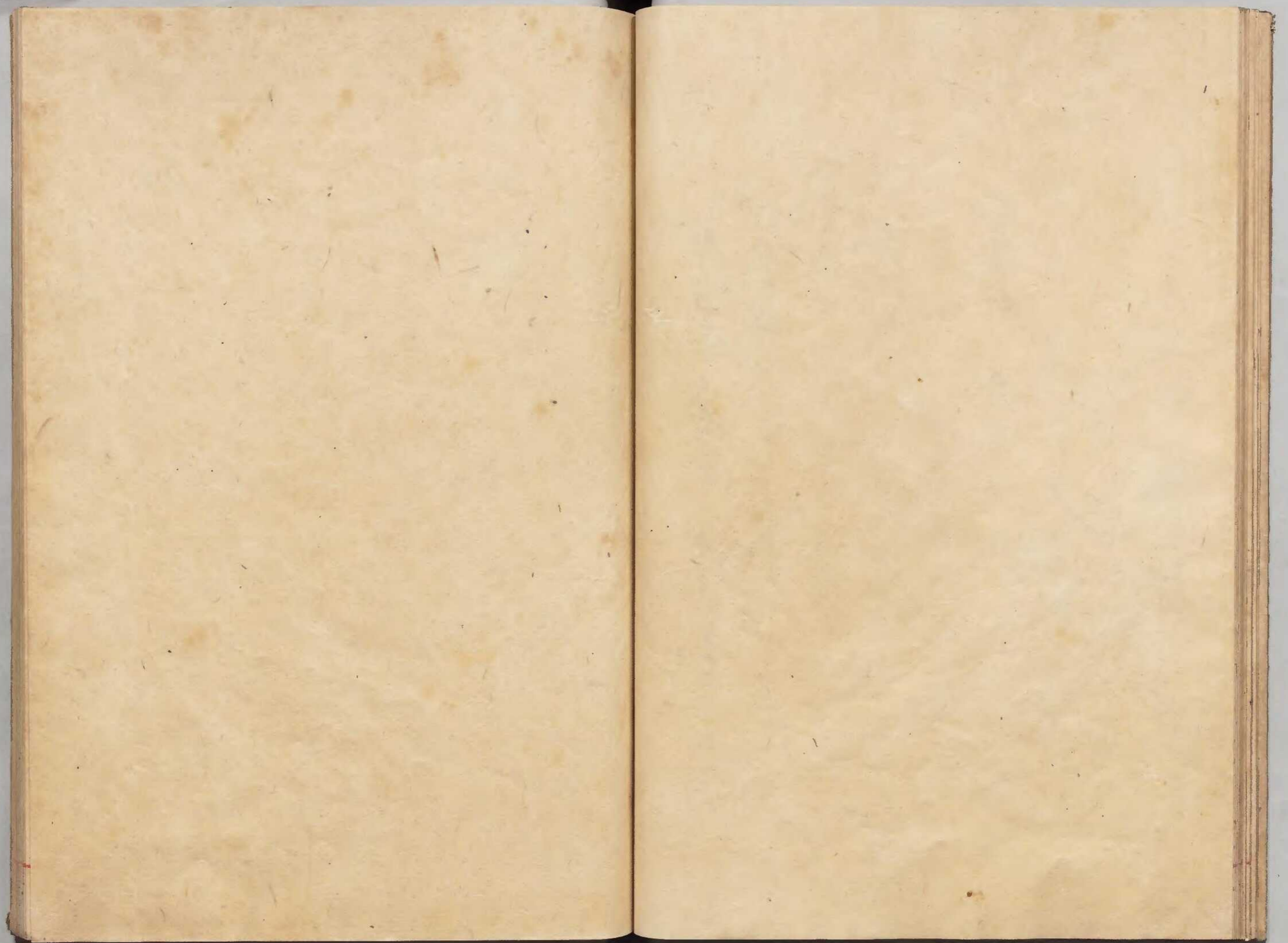
忠重 ちかひら

六郎むさし忠重ちかひら 生必同家

寛永かんえい十じゅう五ご年ねん十じゅう二に月げつ六ろく日にち七しち條じょうととして

お軍家おぐんかととなりなり

家いへ級ぐい九くのの内うちにに三さん巴はとと下したにに一いち又また字じ



林もろ

● 清重きよしげ

十善じゆぜん

生必三列なまかなみ

先祖せんぞ依よ々々

沖高おきたか家け一いちはは久く人ひと身み々々

清衡きよひら

小名こな

生必なまかなみ月つき身み

東巡大控現り所り久き等らりと後ご 佐さ小こら
丁て佐さ康か之の小こ佐さら

清實きよさとし

牛古海うしふるみ 生必日安なまかな

大控現りとと有あ福ふ一い等らら

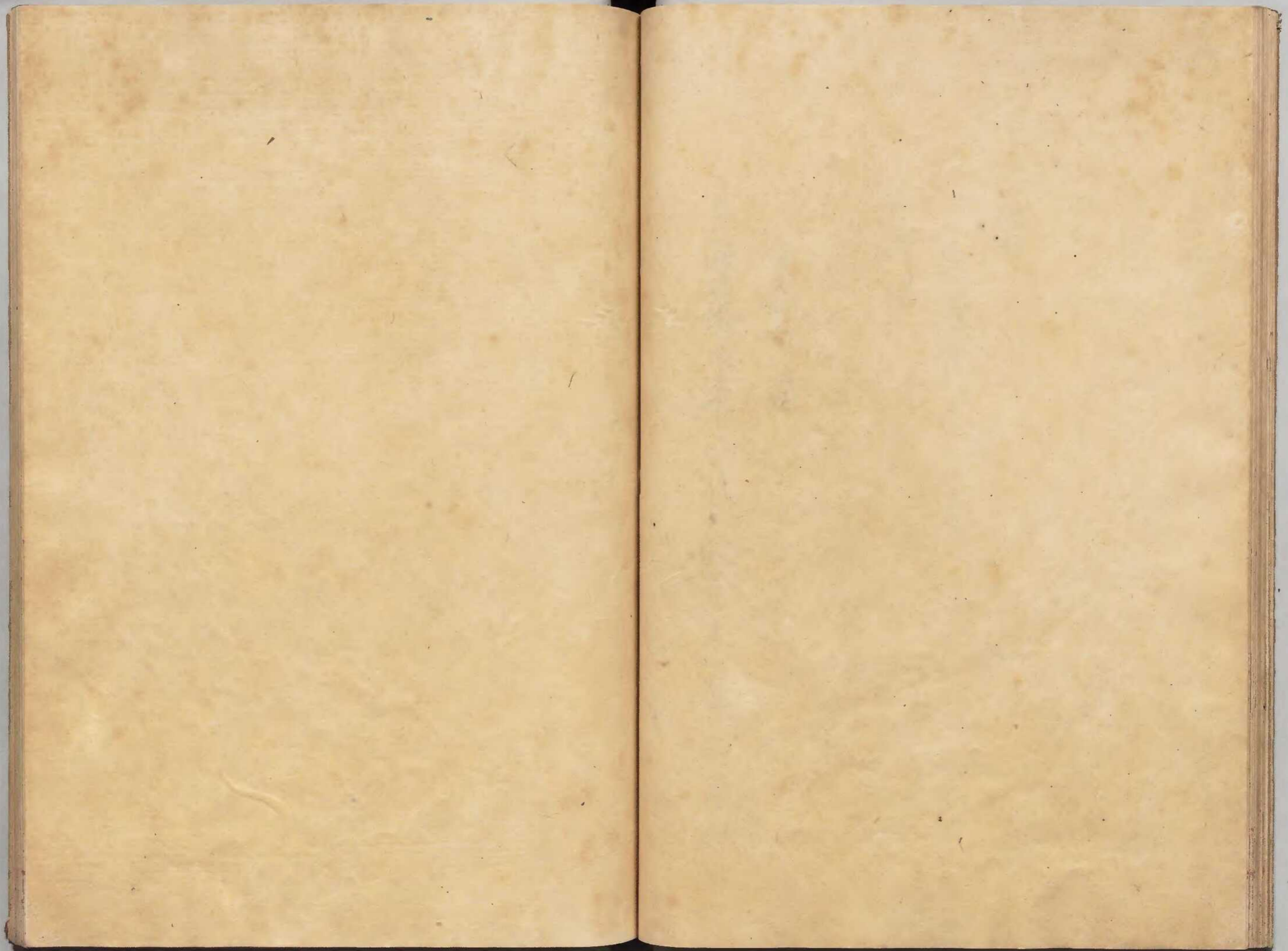
安やす七しち女にょ之の小こ山やま陣じん関せき原はら陣じん小こ佐さら

元和二年

名な進しん院いん教きょう一い所しよ久き等らりと後ご 佐さ小こら

寛永六年二月 鈎かぎ命めい一い所しよ久き等らりと後ご 佐さ小こら
少すく御ご鉄てつ炮ぱうとと一い所しよ久き等らりと後ご 佐さ小こら

家紋 左巴ひだりま一文字いっもんじ



上田えんじ

新野三郎義光しんの さんろう ぎこう 末葉すえはよりして
小笠原の一族なり 佐列さけつ 上田えんじ
佐寸是さすけ 小こ 一いち 孫まご 號なづか とす

● 重氏しげうぢ

弥右衛門やゑもん

生必尾列なまかなづか

母はは 五郎ごろう 左衛門ざゑもん 七しち 秀ひで 一いち 氏うぢ

重元 チカモト

基右衛門 にんのかげいで
母羽長考はなながしと云ふ

重安 チカヤス

左左衛門 ひだりざえもん 主水助 ぬすみずのすけ 従五位下
利てい俊しゅん一いつて宗むね園のと号す
母羽長考はなながしと云ふ

天正十三年七月廿九日あまのひで 長考ながし死にて後のち長尾ながお考かを
と云ふ考かを陪へい后ご教しやく人にんと云ふの母
重安チカヤスと云ふの身み一いつて我われをかけうらあく
是こゝ万よろ石いし地ぢと願ねがふ

久祿三年七月廿九日きよく 長考ながし死にて後のち長尾ながお考かを
と云ふ考かを陪へい后ご教しやく人にんと云ふの母
ままりり従したが五位下ご小こ叙ぎよ一いつて主ぬす水みづ助のすけと号す
考か七しち五ご年ねん後のち野の幸さち長ながと云ふのつつと云ふの紀き
列り位ゐ寸すん

元和元年大坂毒丸おおいさか乃のち討う殺ころすと泉いづみ

川櫻井をりしのかしかわくくいみけりくく軍え
切きりけり、まにせい藤列しゅうとま兵へい任にん寸すん

重秀しげひで

之このよ教のすけ助すけ

寛永九年三月

將軍家とありきり

同十二年二月廿日かきやまのこ江州野洲郡小倉

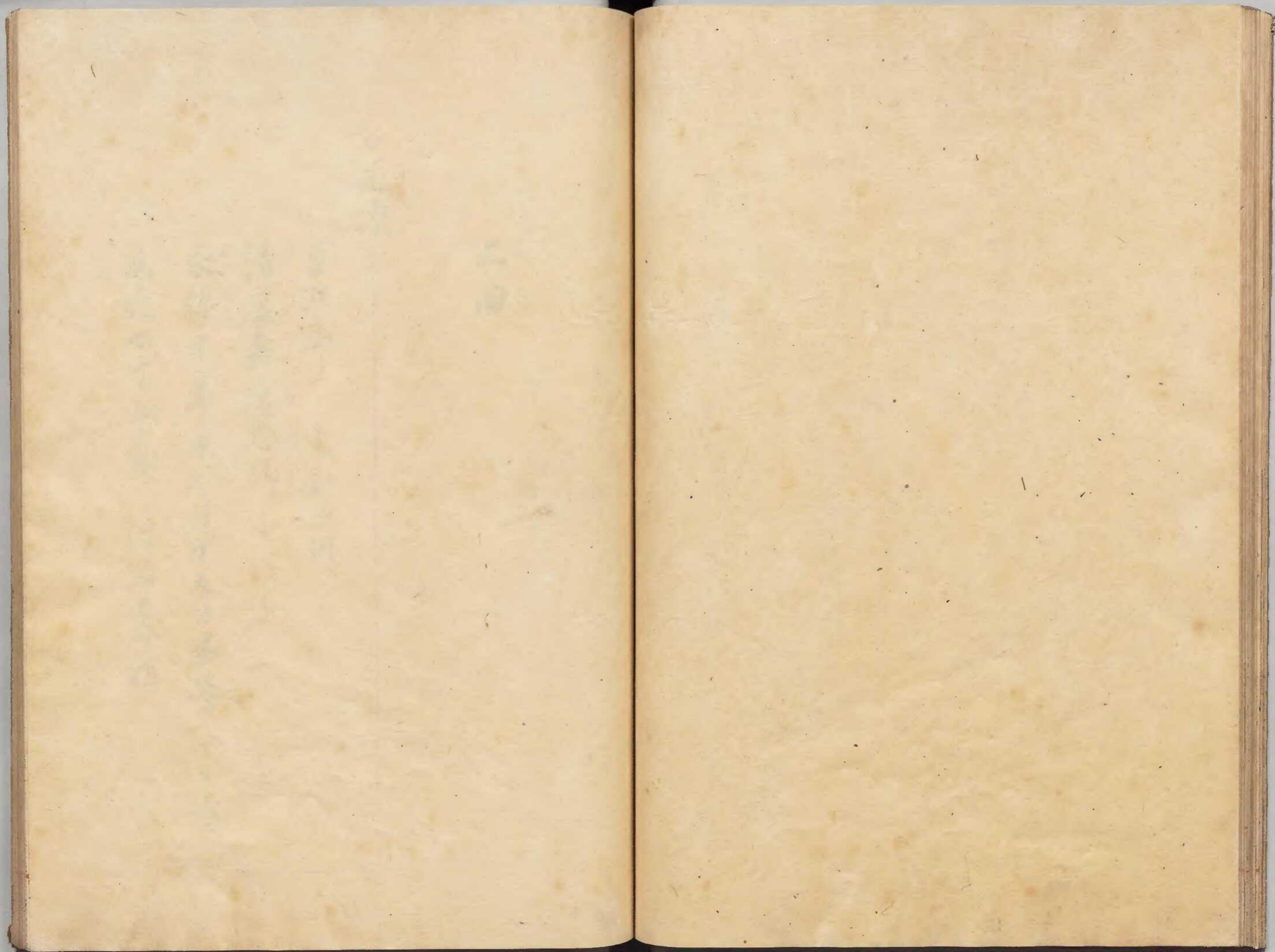
わくくまの地のとありし

重政しげまさ

細家

淺野あさの長晟ながあき同な光晟みつあきとありし

家紋釘貫くわいぬい



上田 えだ

● 元次 もとつぎ

万五郎 まんごろう 生必三列

清康若 きよかんな 廣忠 ひろちか 歸 かへり 一 ひと 行 ゆき 小 こ

永祿十年十二月十九日 えいりくじゅうねんじふにがつじゅうくにち 忌 よみ 勝 かつ 小 こ 右 みぎ

病死七十五家 びやうししちごじゅうか 法名 ほふな 孝 かう 禮 れい

之像

生國回舟

廣志弼

東照大権現

名酒院教くはふ

初め清康素此才松平義人信孝

廣志弼くうじきく織田弾正忠一

与力く三列忌彦くお張の時之像

す子ら信孝と討く是小より三列大

漢くかめく領地と給るその後

大権現信孝此じしもと之像と嫁り

たきふ之像小勇なるゆ人別三列河原

見村小く信孝じしもく領地とたきふ

時く之像の命のくけなきゆと

謝してはく信孝はしては沖一族た

と志るにのじしもとゆらゆらゆら

とゆらゆら申され

大権現の物ものし、いづくいづくえ後の教代しんが御家ごけ、
け久ひさと石川いしかわ安藝あき守もりが外孫ぐわいそんなるゆへ油あぶら
いかわく御ごやうらと危あやうしたまやう
な〜とと志しあけ物もののらるゆへい辭い
しるにともあなく〜してはあまのい
わとる
え後に存ぞんと討うち〜と死いにいといら
ふより幼こ少せうない〜と是こ〜とら
三州さんしゅういかわく御城ごじょうのる守番しよばんと勤つとめ

番頭ばんとうとちり
同東どうとう御入ごにり世よの後のちにい〜りて御城ごじょう
守番しよばんと頭かぶとちりとをいらる老おと
かよふゆへ御ごやう〜と〜り〜と
領りやうの地ち〜と領りやう
享きやう七しち十年じゅうねん七月しちがつ十二じふに日にち武州ぶしゅう羽林村はりんむら
いかわく病びやう死し八はち十一じふいち家いへ法はふ石いし法はふ心しん

元改げんかい

万五郎まんごろう

長七十二年城州伏久トクノノ花々
二十九家

後勝トクノ

法大衛トクノ 生五三列

寛永九年四月十八日トクノ後府トクノ
死寸三十九家 法名トクノ澤園トクノ

勝正トクノ

勘三郎 生四武彦

名徳院教

將軍家トクノノ人トクノ

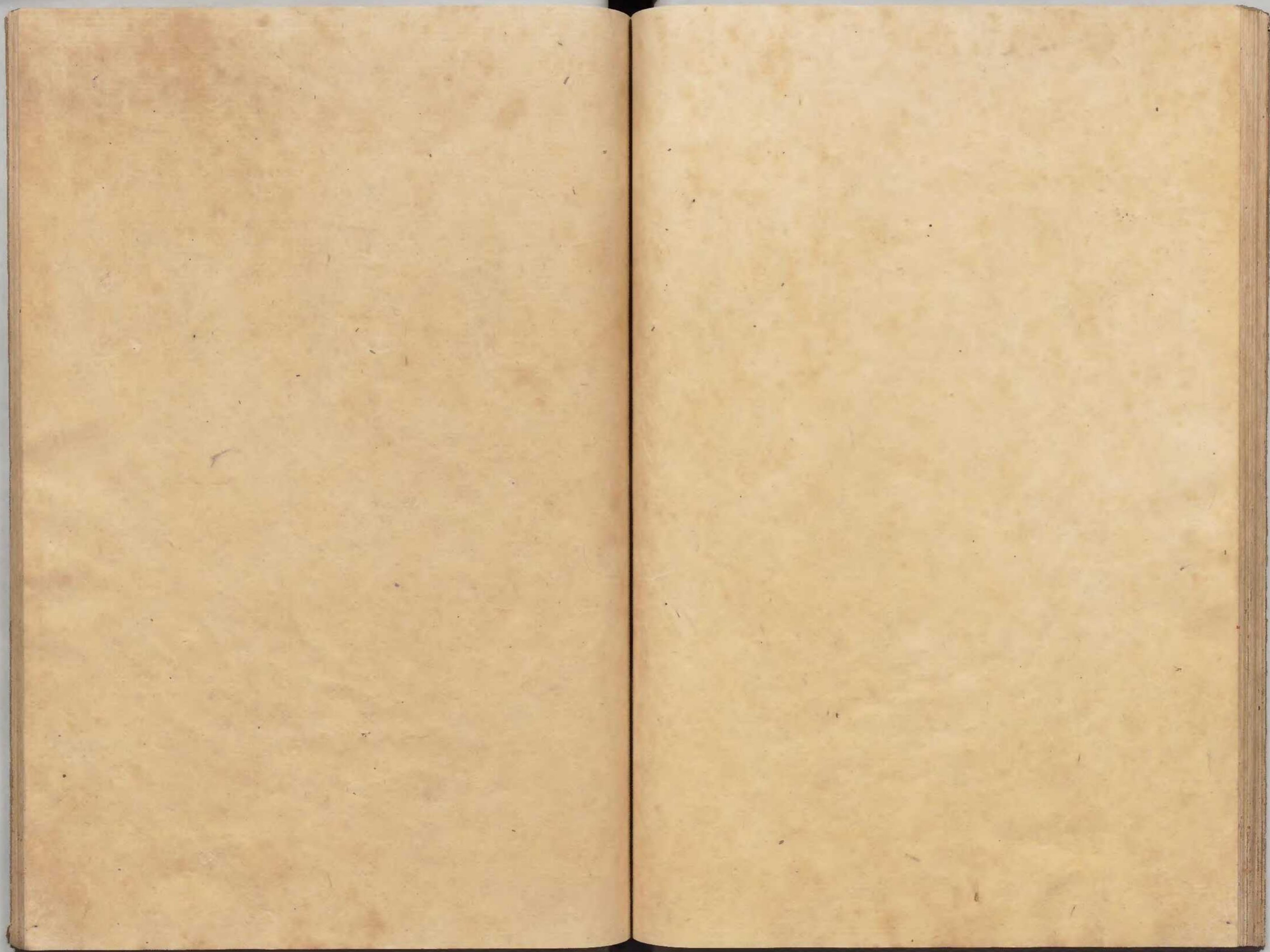
元勝トクノ

万五郎

名徳院教

將軍家トクノノ人トクノ

家級トクノ固心トクノ若根藤トクノ



伴野とも

● 貞元まこと

刑部大納言

貞平まこと

相模守さまとり

貞儀まこと

美濃守

貞行 まことゆき

實心作

貞吉 まことよし

能光守 のぶみつゝ

明清寺と号す めいせいじ

信玄孫 のぶのむね 於父 おや 子 こ 一 いち 氏 うぢ 子 こ

貞衣 まことえ

駒馬守 こまゝゝ

全正 ぜんせい 号と号す ななめ

信玄孫 のぶのむね 於父 おや 子 こ 一 いち 氏 うぢ 子 こ

東照大権現 とうしょうだいこんげん 一 いち 氏 うぢ 子 こ

寛永 かんえい 五年 ごねん 奥州 おくしゅう 陣 じん の時 とき 貞衣 まことえ 依 よ

守 まも り り と と 一 いち 氏 うぢ 子 こ 一 いち 氏 うぢ 子 こ

名 な 陸院 りくゐん 教 けう 師 し 一 いち 氏 うぢ 子 こ 一 いち 氏 うぢ 子 こ

約 やく 命 めい 一 いち 氏 うぢ 子 こ 一 いち 氏 うぢ 子 こ

勤心 きんしん

貞明 まこと

まことゆ

寛永十九年元和元年大坂陣小坂
多作後当正信が紐なひに属まゝし
名法院教の依より

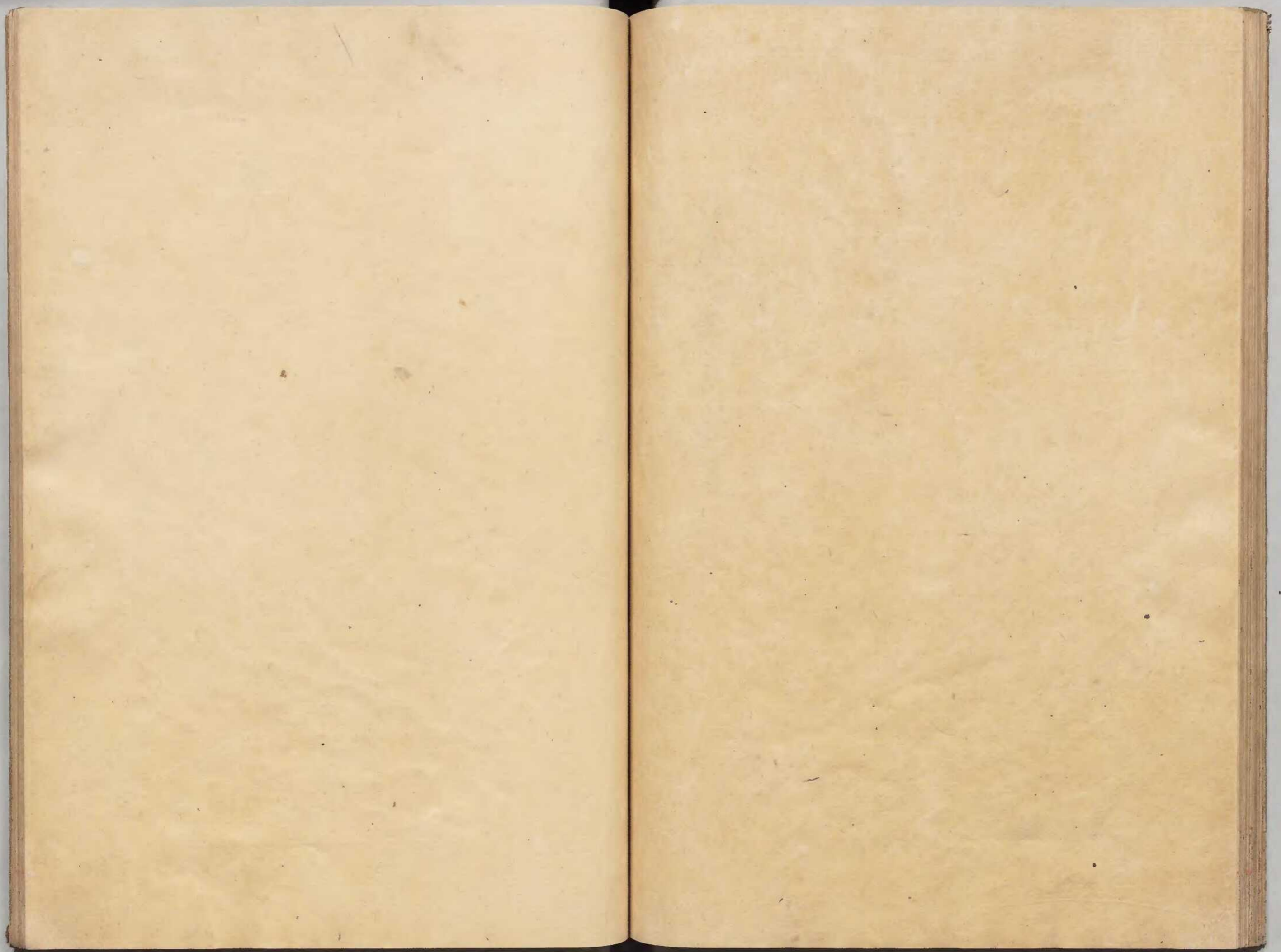
貞政 まこと

九上衛門

寛永十三年

右軍家のしげ人なり

家紋 松皮菱 まぶらび



● 盛信

中鴻

信州伴野六郎時名が末流
後之河々々々中鴻と称号とす

筑後守

生必武列

小條氏並同陸奥与氏類

年七十五小く病死 法名常寛

盛直 りかむ

大秀

生國日家

小原隆奥守氏らうらう種小け人甲州新府陣えふえ

とく言名こゝろりりられよりさ記小田原と

甲州とんとら名とくたのいし知り

より起請文といまゝ信玄えいげん此け取と

うむいよりさり隆奥らうらうちふ見えられん

大おおいよりさびすれりやい慶美とて引

ゆり此十字字の級乃指物とさびくりえきよ

天正十八年小田原落城の後翌年うらげん

東照大権現へゆかされすより奥列

御陣の佐々

交名五子ごご関原御陣と佐々

同十八年病死六十歳 法名常林とくえん

信久 のぶひさ

五子隆

生國日家

名護院殿へ所人きそまつ

寛永九年六月二日歳々病死

正平

三太衛門 生必田家

元和八年

名護院殿とありて家

寛永元年

相軍家へりてつり

正徳

権左衛門 生必田家

寛永十三年

相軍家とありてつり

寛永甲州中野次右衛門正定が嫡子なり

正定は長田後頼とけり甲州落玄の

たり

大権現へりておろす

寛永五年

名徳院教とあるは家内年六田御陣の

伏せし

大坂支度に御陣し伏せし軍士と

と

寛永八年七十三歳と病死

盛昌

十右衛門 生必日家

大権現

名徳院教へ侍りてうけら忠を辨

し侍り又

將軍家へ侍りてうけら御侍と勤心

八十七歳と病死 法名元燈

盛利

五郎右衛門 生必日家

寛永九年十一歳と

大権現おほごんげんとほく人ひととそまらる

同十五年

右陸院教とあつ湯と

元和元年大坂再また礼らいの附つに於お休やす中ちゆうと

紹しやう興きやう廣ひろ一城いちじやう中ちゆう二にの丸まる一いちあつく首くび二に

うらとり軍ぐん初はつとくげげとすすと後ご

右軍家とあつ湯と

啓明きめい

七しち信しんの 生なま必かならず同どう家か

寛永十三年

右軍家とあつ湯と

啓直きちく

孫まご玄げん衛ゑ

寛永十二年

右軍家みぎぐんか一いち石いしおおつつれれ御ご者ざと勤つとむ

家この級り九こ巴え固た扇ん

赤越あかこし

小笠原こしかげ末流まゆりゅう先祖せんぞ佐川さがわ大井おおい
よりよりおおりり後ごにに出で羽は田た利り郡ぐん
赤越あかこし郷ごうにに移うつりりとと代しろにに任たづじじりり友とも
赤越あかこしとと孫まご号ごうとと寸すん

● 光重みつしげ

宮内少輔

生必羽川

天正十九年五月いんかご肥前名護屋
かめく三十一歳いんおと死す 法名存願いん

光隆こうたう

左近 生必同家

文長五年ぶんしご関ヶ原せきがはらの付

東照大権現とうしょうへ光隆こうたうをいいい一族いっしゆ為下

かき色かきいろ系けい後ごかえのいも出陣しゅじん必い庄内しやうない

にいきいといろいろいけいとい死い志い常いといりいて

かずいりいかいるいこいりい
常州じやうしゆ新方しんかた郡ぐんのいらい新しん庄しやう村むらといおい飲いと

ういのいらい

名護院なごいん殿でんへいしい入いせいりい

同い十い字い年い五い月い十い日い武ぶ列りやくといかいめいと

二十九にじゅうきゅう歳さい少せうとい死いす 法名ほふな信しん終しゆ

光種こうしゆ

次つぎ右みぎ衛ゑ 生必同家

寛永かんゑい六む年ねん十二月じふにがつ廿にじふ七しち日にち初はつと

心
名徳院教とありけり
御書院番とあり

家級
松道菱

利勝りかつ

五郎ごろう若流わくりゅう

生必せいひつ三州さんしゅう

七照しちてう

岩庫いわくら乾かん 生必せいひつ英流えいりゅう
織田おだ信長のぶなが氏うぢ氏うぢ

丸まる後ご

小笠原おがさわらの末流しゆらいなり

三列 邑崎とらた、かたき

東照大権現とあとあり、せき

天正十八年 關東沙入せんとの村伏ふしをして

御幕ごまくらと、いつく、老後らうご、かびくかびくと、後ごと

持もちり、と、所ところ

文祿六年 相州さうしゅう、少すくく、病死びやうじ、内うち、七十歳

法名 現雪げんせつ

利久りきう

目通めと、生玉なまたま、田家でんけ

孝列きやうれつ、溪村せきむら、かたき

大権現おほごんげんとあり、せき、と、後ご

名護院なごいん、教きやう、と、あり、せき、と、大津おほつ、番ばんの、組頭ぐみづらとあり

元和七年 池田いけだ、二ふた、層はう、の、尉ゑい、轉てん、政せい、と、い、し、と、と

伴たて、連れん、越えつ、前ぜん、志し、家け、人ひと、嫁よめ、娶めと、り、の、と、と

名護院なごいん、教きやう、の、位ゐ、と、い、け、と、あり、せき、と、と、い

て、枝えだ、地ぢ、と、指さし、す

寛永九年 病死びやうじ、六十二歳

重成 しげなり

牛之物 生必同家

字列 漢松こほまつとあめく

大権現とありきり

寛永五年相列あいに少く病花 五十二歳

法名 普清ふしやう

重親 しげちか

三戸さんどの 生必相列

寛永五年九月

名徳院教とあしはふけり十六歳

同九年五月

將軍家とあ獨ひとりなり大御番と勤む

利明 りみあき

五郎兵衛尉 生必長孫ひらひら

寛永八年十一月

名徳院教とあ獨ひとりなり

同九年

將軍家より人なり大御番と勅じ

日十六日

約命より御膳の役と

つとむ

家紋 栞しり校がう

初 初

小笠原氏よりお

● 行 忠

越 中

生 必 儀 列

氏 田 儀 公 一 属 寸 九 十 二 歳 一 人 死 法 名 道 和

勝 忠

越 中

生 國 日 家

任玄たかと云ふ

天正九年三月廿八日六十三歳と云ふ

玄たか 法名存龍しんりゆう

昌忠まさただ

九郎右衛門 生必甲斐あいつ

東照大権現とありと云ふ

享長十一年二月十二日死す年六十三

法名士龍しりゆう

幸次きんじ

九郎右衛門 生必同家

大権現

名法院殿へはる人なり

享長十九年大坂陣の内侍に仕

牧野まきのとありと云ふ 組ぐみに属まかす 聖よ子こ多た礼れい

いときふ 松平殿中まつだいらのちゆうと云ふ 組ぐみに属まかす

佐守さもり

昌^{まろ}座^ざ

平^{へい}太^た丈^{ぢょう}

生^{せい}必^{ひつ}氏^し彦^彦

乃^の軍^{ぐん}家^かへ^へは^はら^らへ^へし^しる^る

家^{いえ}級^{きゅう} 松^{しょう}皮^ひ菱^{りやう}

● 重晟 あき

横田下野 生必野列
長田仁虎 あき 下野

次郎 あき

了 あき 横田 あき 与 あき 重政 あき 代 あき 一 あき 至 あき
了 あき 次郎 あき 与 あき 改 あき 口 あき 孫 あき 也

重政しげまさ

九郎三郎

右衛門

生目甲斐

信玄しんげん侍さむらい於お父ちち子こにに侍さむらいす

とゆふまは軍中の使者ついでんなり

天正三乙てんせいさん乙おつ藤ふじしかわく討死うちころしす

天正三乙てんせいさん乙おつ藤ふじしかわく討死うちころしす

とゆふまは軍中の使者ついでんなり

正次しげつぎ

後右衛門

生目甲斐

天正十年甲州御入寇の時しげつぎ

東照大権現をおくせり

安永乙酉やすながおつ年関が系陣けいじんの時正次侍を

討十七年病死年三十九しげつぎ法名休圓しゅうえん

重貞しげさだ

後右衛門

生目甲斐

元和二年

名護院殿へ侍をせりそのら

乃軍家ノ所ノ人ナリ

重作しんさく

三歸若湯

生必日矣

元和五年

名酒院敷

乃軍家ノ所ノ人ナリ

家級下しんぎ膨はふ松皮まつかわ菱ひし

● 系

羽取

小笠原の末流と野原系は別羽取
羽取とは

伊賀守 生必甲斐

長田信虎 行玄 父子と信人と甲州

の月山宮村 子塚村 中村 羽黒村 湯村

長川村 龜嶽村 七呂寺村 七場村 等

と領^りど 法名^{えん}攀桂^{けい}

勝^り資^し

大炊^{おほい}助^{すけ} 尾張^{おわり}守^{まも} 生^{なま}必^{かな}日^ひ分^{ぶん}

信^{のぶ}玄^{げん}務^む頼^{のり}父^{ちち}子^こと流^{りゅう}ふ父^{ちち}伴^{ばん}賀^が当^{とう}り領^{りょう}
地^ちと給^{たま}りり之^の外^{ほか}任^{にん}列^{れつ}と若^{わか}く^く敷^しヶ
而^{しか}の能^{のう}地^ちと給^{たま}りり甲^{こう}列^{れつ}一^{いつ}乱^{らん}乃^のととこ
討^う死^し 法^ほ名^{めい}天^{てん}祐^{ゆう}

系

又^{また}其^{その}歸^き 氏^し部^ぶ 生^{なま}必^{かな}日^ひ分^{ぶん}

初^{はつ}初^{はつ}刑^{けい}部^ぶが普^ふ父^ふ

信^{のぶ}玄^{げん}務^む頼^{のり}と流^{りゅう}ふ甲^{こう}列^{れつ}一^{いつ}乱^{らん}の後^{のち}

大^{だい}控^{こう}規^き一^{いつ}りかき^{かき}進^{しん}之^の列^{れつ}富^{とみ}子^こ村^{むら}た^たく^くび

と河^か系^{けい}村^{むら}と^と能^{のう}地^ちと給^{たま}りり

法^ほ名^{めい}古^こ岩^{いわ}

信^{のぶ}業^{ぎょう}

又^{また}八^{はち}郎^{らう} 後^{のち}と和^わ田^{でん}と孫^{そん}と 若^{わか}清^{せい}重^{ちゆう}

生國日か
信玄勝於父子ふし
為之野和田の城の和田の藩の女の娘
一人有り時と信業の河の長の家督
と信玄の此の和田の藩の女の又と是の寸
甲州没落乃後小條氏並り一属と
元和三年九月廿九日辛丑十八死寸
法名日山

系

又七郎 大炊助 生國日か
信玄孫於父子ふし甲州没落
の後
大権現へ石かくれと総の必しりか力く
藤子村 長尾村 太康村 祇園村 翠
作村 惣利村の領地と併せぬと
法名一溪

業保

又八郎

幼少乃内艾信業が花玄^{ハナノ}以^ヨ以^ヨ刑部^{ケイブ}
厨^{カド}ちいしく才^{サイ}とたろ

寛永十年十月二日

の軍家とあしむ

同六年 御命より御小姓^{ミコシヤウ}組乃

御番と勤し

同八年 依地と勤し

同十年 御加増お依し御書院番^{ミキヤンバン}
とたろ

家紋

松皮菱^{マツクワシ}

